

2021年度

# 事業計画書

自 2021年 4月 1日  
至 2022年 3月 31日

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝 2500 番地

## 目 次

I. 事業目的	.....	3
II. 事業理念	.....	3
III. 2021年度事業の環境と基調	.....	3
IV. 事業計画		
■スポーツチャレンジ助成事業(公1)		
1. スポーツチャレンジ体験助成・スポーツチャレンジ研究助成	.....	4
2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動	.....	4
■スポーツチャレンジ体験事業(公2)		
1. ヨットスクール・競技会の開催・運営		
(1)ヨットスクールの運営(ジュニアヨットスクール葉山)	.....	5
(2)競技会の開催(セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖)	.....	5
2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催		
(1)教材の提供	.....	6
(2)体験会等の開催		
① 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催	.....	6
② その他の体験会等の開催	.....	6
■スポーツチャレンジ啓発事業(公3)		
1. 表彰(スポーツチャレンジ賞)	.....	7
2. 調査研究、シンポジウム等の開催	.....	8
3. その他情報発信	.....	8

## I. 事業目的

当財団は、教育、スポーツ等を通じて児童・青少年の健全な育成を図り、国民の心身の健全な発達に寄与し、豊かな人間性を涵養すること、ならびにスポーツと深い関わりのある人間科学、スポーツ医学等の学術及び科学技術の振興を図り、併せて我が国におけるスポーツの普及・振興とスポーツ文化の振興・発展を図ることを目的としています。

## II. 事業理念

- 1) 目指す社会 : 誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力に満ちた社会
- 2) 社会への提供価値 : 人に、社会に、スポーツを通じた成長機会の創出
- 3) 役割 : 次世代の人材育成
- 4) スローガン : 「Activate with Sports」 中期事業方針呼称「Active 5」  
スポーツを通じて、夢の実現にチャレンジする人を応援します

## III. 2021年度の事業環境と基調

- 昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大は年明けも続き、1月には11都府県を対象に2度目の緊急事態宣言が発令されるなど、医療、社会経済、国民生活全般において国難とも言える極めて甚大な影響を与えています。スポーツの分野においても、東京五輪・パラリンピック開催の行方、国内外での各種競技大会の延期・中止や、アスリート・研究者等の活動環境等への影響。一方、日常の教育現場や家庭生活における子どもたちの運動機会の減少も社会的に懸念されています。
- 当財団の事業も2020年度開始直前からコロナ禍の影響を受け、参加者の安全を最優先するため、昨年3月スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング開催中止に続き、セーリング競技会、4月スポーツチャレンジ賞表彰式延期、ジュニアヨットスクール葉山を一時休校とするなど苦渋の決断をし、法人運営においても理事会、定時評議員会をWeb会議や書面決議とするなど、関係者が一同に会する行事において運営方法や体制等の見直しを行いながら対処してきました。
- とりわけ当財団が事業の特徴とする、スポーツや水辺体験の機会提供による子どもたちの成長支援では「実体験の場」が減少し、助成事業を通じたチャレンジャーの成長支援においては異分野の交流等、「一同が集う機会」が設けられず心苦しさを感しました。しかし、前向きな視点で将来に目を転じれば、助成事業で実施したWeb方式の中間報告会や現場訪問などに、新たな価値や可能性を見出すこともでき、これからの事業運営を考える上でヒントを得ることもできました。
- 2021年度は、2006年度に当財団が設立されてから15年の節目を迎えます。これまで5年ごとに「参加」「認知」「波及」というテーマを設け、大きなサイクルを一回りしたことになります。この節目を迎えるにあたり、これまでに実現できたこと、できなかったことを振り返るとともに、スポーツ振興と人材育成を目的とし、「スポーツを通じて、夢の実現にチャレンジする人たちを応援する」という当財団の理念(原点)や、事業の本質を再確認し、前述のコロナ禍をはじめ、今後のさまざまな時代の変化に対応しながら社会的価値を高め、「ヤマハらしさ」のある持続的な活動として進化を続けていくために、次なるステージへとチャレンジしていきたいと考えています。
- 2021年度の事業計画においては、2020年度に引き続きコロナ禍の影響を受けざるを得ないと捉えています。子どもたちなど参加者、関係の方々の安全を最優先し、適宜見直し、調整を加えながら事業を運営していく所存です。日頃、当財団の事業を縁の下から支えて下さっている関係の方々に改めて感謝を申し上げるとともに、引き続きご支援をお願い申し上げます。

## IV. 事業計画

### ■スポーツチャレンジ助成事業（公1） 「世界にはばたく逞しい人材の育成」

本事業では、スポーツとその周辺分野において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成をめざし、高い志・目標を掲げ、チャレンジするアスリートや指導者、研究者等の活動を支援・助成します。

#### 1. スポーツチャレンジ体験助成・スポーツチャレンジ研究助成

世界にはばたく逞しい人材の育成をめざし、スポーツを通じて夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判など幅広いスポーツ関連分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的なプロセスを持った、チャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動を助成し、また、スポーツ医・科学、スポーツ文化などのスポーツ関連を対象に、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動を助成しています。

- 第15期生では、体験助成（アドバンスド・ベーシック・ジュニア）15件、研究助成（基本・奨励）16件、計31件を対象者として助成し、その活動を支援していきます。
- 第16期生の募集は、9月初旬から10月下旬に予定。書類審査、面接審査を経て、翌年2月末までに対象者を決定し、助成金贈呈式を3月予定のスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングにて行います。

#### 2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

助成対象者に対しては、目標管理、PDCA を基軸とする年間を通じたフォローアップとして、期中における四半期毎の報告書提出、中間報告会への参加、及び1年間のチャレンジ成果を発表する成果報告会への参加を要請します。

- これらの活動は、助成対象者のチャレンジを支援すると共に、スポーツにかかわる者としての人間的な成長をも支援することを目的に実施するもので、異分野の交流や講演会等を開催するなど、参加者にとって相互の刺激や気づきの機会を提供しています。
  - ・ 助成対象者の活動に理解を深め、情報共有を促進するためのチャレンジ現場の訪問活動。
  - ・ 第15期生中間報告会 2021年10月予定
  - ・ 第15回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング 2022年3月予定
- スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでは、スポーツにかかわる人たちのレベル向上や意識向上などを目的に、参加者一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会となるよう、Web 方式の活用も含め、異分野交流等の機会を設け、その様子はスポーツにかかわる人たちへの参考情報として、ホームページ等を通じて広く社会に情報発信していきます。
- 本事業の社会的な認知や質的な向上を図るため、募集段階において大学や関係団体等に対して事業の趣旨や特徴を分かりやすく紹介することや、採択後のフォローアップ、OBを含めた助成対象者間での交流を促進するなど、チャレンジャー視点でのプログラムの活性化に引き続き取り組んでいきます。

## ■スポーツチャレンジ体験事業（公2） 「心身ともに健全な子どもたちの育成」

本事業では、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や水辺・自然体験の機会を創出します。

### 1. ヨットスクール・競技会の開催・運営

#### (1) ヨットスクールの運営（ジュニアヨットスクール葉山）

セーリングスポーツを中心に水辺・自然体験などを加えたプログラムを通じて、子どもたちのチャレンジ精神を喚起し、自主・自律・想像（創造）の力を育むとともに、チームワーク、リーダーシップなどを養い、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小・中学生から高校生を対象とした通年型（4月から翌年3月まで）ヨットスクールを運営しています。

○本スクールでは、セーリング指導をベースに、より安全に配慮した指導、水辺の安全学習など、現代の子どもたちに必要とされる水辺・自然体験活動や、海・水辺・海事に関する総合的かつ特徴あるプログラムを通じて、知識向上や安全啓発を行うなど、心身ともに健全で逞しい子どもたちの成長を支援しています。

- ・ 水辺の安全学習（7月予定）日本ライフセービング協会と連携して開催。
- ・ 日常練習の他、夏季合宿や対外レースへの参加を通じた成長機会づくり。
- ・ 2022年3月開催「第30回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」にスクール生を参加させ、成果や課題を確認するとともに、各種交流機会への参加。

○体力測定や技能検定等の結果を翌年度の「個人別プログラム」に反映するとともに、成果確認や目標設定においてはコーチ・保護者と情報共有を行います。また、スクール運営の充実に向けて、保護者の理解・協力や指導者との一体感を醸成するため、保護者アンケートや懇談会を開催し、スクール生の成長やスクール運営に関する意見交換を行います。

○スクールの安全管理体制強化や指導内容のさらなる充実を図るため、セーリングスポーツ指導者のレベル向上に向けた指導資格取得のための支援を行います。

#### (2) 競技会の開催（セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖）

全国で活動するジュニア／ユースセーラーが毎年集う、セーリング競技会として定着している本大会は、1年間のトレーニング成果と次年度の目標確認の機会として、また、技術指導や選手・指導者の交流機会など参加者の成長を支援する「学べる競技会」を特徴とした大会を毎年3月に浜名湖を会場に開催しています。

○毎年12月から全国47都道府県セーリング連盟に案内し、併せて当財団ホームページを通じて募集。

○第30回大会は、ジュニア／ユース全艇種を対象とした総合的なセーリング競技会として開催し、各クラス協会や静岡県セーリング連盟との連携のもとに円滑な運営に努めていきます。

- ・ 第30回セーリング・チャレンジカップIN浜名湖2022年3月開催予定。（会場：県立三ヶ日青年の家）

○元日本代表選手・コーチなど専門家を招いて、選手や指導者を対象に技術指導や学習会を開催するなど、研鑽と交流を深める場としての役割も果たしていきます。

## 2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催

### (1) 教材の提供

近年、子どもたちの体力・運動能力の低下が社会的に懸念されている中で、子どもたちのスポーツ機会の充実や、スポーツの裾野拡大に寄与するため、全国の幼稚園、小中学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等を対象に、スポーツ教材を提供しています。

- 15年目を迎えるスポーツ教材の提供は、2月に提供教材の内容他、募集要項をホームページ掲載や全国各地教育委員会等を経由して案内し、4月下旬の抽選会を経て、約120団体の提供先を決定します。
- 募集段階から事業趣旨の啓発に努め、提供先団体の活用報告や現場取材などをもとに、スポーツ教材の模範的な活用事例は、ホームページ等を通じて情報発信し、スポーツを体験することの楽しさや大切さをより広く社会に訴求していきます。
- 子どもたちの体力・運動能力向上のための課題認識や、学校等における教材の活用実態やニーズの把握に努め、当財団の他の事業活動との連携を踏まえ、年度ごとに教材の見直しを行っていきます。

### (2) 体験会等の開催

心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や、水辺・自然体験の機会を提供します。

#### ① 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催

- 近年、子どもたちの水辺・自然体験の機会減少が社会的に懸念されている中で、小学生以下の幼児・児童を対象に、海や川など水辺での体験活動を行うきっかけの一つとして水辺をテーマとした絵画コンテストを実施しています。このコンテストを通じて学校や家庭などでさまざまな水辺体験を行い、それを絵に描くことによって、水辺への興味・関心を深め、また、表現力や感性が育まれていくことを願っています。
- 第33回となる本年度のコンテストは、6月から9月まで作品を募集し、10月下旬に専門家、協賛・後援団体代表者による審査を行い、選定された約400点の入選作品の中から、4大臣賞をはじめとする約20点の入賞作品を決定し、12月に表彰を行います。また、決定した入賞作品は、ジャパンインターナショナルポートショー及びその他会場での展示公開を予定しています。
- 作品募集段階から事業趣旨の啓発に努めるとともに、現場取材などを通じて、ユニークな活動や模範的な活動を実施している学校・団体の情報は、ホームページ等を通じて広く社会に発信するなど、子どもたちの水辺体験をより促進するよう啓発に努めていきます。

#### ② その他の体験会等の開催

##### A. タグラグビー体験会の開催

- 2014年度から行っている静岡県西部の3市1町の小学校を対象とした「指導付きタグラグビー教材提供」は、指導現場の要望に対応し、スポーツ教材の提供と合わせて、ヤマハ発動機(株)の元ラグビー選手の協力を得て、児童や教員など指導者を対象とした体験活動を行っています。
- 本年度は、2月～3月募集、抽選を経て3月末に対象先(原則として未訪問学校を優先)を決定し、4月

以降計画に沿って順次展開していきます。また、並行して、過去7年間の成果や現在の学校等のニーズを踏まえ、今後の継続又は新たな体験活動の在り方について検討していきます。

## B. ユニバーサル・スポーツ体験会「チャレンジ！ユニ★スポ」の開催

○障害の有無に関わらず、一緒に実践できるスポーツとして「ユニバーサル・スポーツ」があります。

ユニバーサル・スポーツ体験を通して子どもたちが共生社会を学ぶキッカケづくり目的として、2019年度から調査研究活動の一環として試行開催した本体験会は、小学校等のニーズを踏まえ、(公財)静岡県障害者スポーツ協会指導員の協力を得て、応募のあった県下小中学校を対象に開催します。

2021年度は、前年度に続き、障害者スポーツ「ボッチャの体験授業」を開催していきます。

## C. 「親子で学ぶ水辺の体験会」の開催

○親子で水辺や自然と触れ合い、活動するきっかけとなる機会を提供するため、NPO法人浜松ライフセービングクラブの協力のもと、水辺での安全確保や楽しい乗り物を親子で体験する「親子で学ぶ水辺の体験会」を、夏休みの時期に合わせて、浜名湖の県立三ヶ日青年の家を会場に開催します。

## ■スポーツチャレンジ啓発事業（公3） 「スポーツによる活力ある社会づくり」

本事業では、誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力にあふれる社会の実現をめざし、事業活動の現場から、スポーツの持つ多面的な価値や有用性、環境整備など、スポーツ振興に関する情報発信・提言を行います。

### 1. 表彰(スポーツチャレンジ賞)

本賞は、スポーツ振興において多大なる実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物や団体を表彰し、受賞者のたゆまぬ努力と成果に敬意を表するものです。競技、指導、研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、高く評価されるに相応しい功績をあげられ、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体にスポットライトをあてています。

本賞では、チャレンジスピリットあふれる受賞者のプロセスやその実像を通して、挑戦(チャレンジ)することの尊さや大切さ、「努力は報われる」ことが社会に浸透していくことを願っています。

○本賞は、長年にわたるスポーツ振興への貢献や、先駆者として実績をあげた人・団体に「功労賞」。

今後のスポーツ振興に大きな影響力が期待され、その年、極めて高い成果をあげた人・団体に「奨励賞」を設定しています。

○大学、競技団体、報道機関等から候補者の推薦を受け、当財団に設置した有識者・専門家による選考委員会を経て、表彰対象者を決定します。

○2020年度受賞者は3月中旬に発表し、表彰式又は贈呈式は、4月以降に新型コロナウイルス感染状況に関する社会情勢等を踏まえて、執り行うことを予定しています。

○2021年度表彰は、9月から11月に候補者推薦募集、12月から翌年1月での選考委員会を経て翌年2月末に表彰対象者を決定します。

○受賞者の足跡や功績を紹介するスペシャルコンテンツ「BACK STORIES」を展開。事業の意義や活動の認知向上を通じて、チャレンジすることの尊さを広く社会に訴求するための情報発信をしていきます。

## 2. 調査研究、シンポジウム等の開催

当財団のこれまでの事業経験をもとに、スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与するため、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果を広く社会に情報発信し、社会活用を促進していきます。

この活動においては、現場ニーズを起点に、「現場で活用しやすいアウトプット」を大切な視点とし、情報の受け手の目線に立った、より分かり易い情報発信に努めていきます。

### ○障害者スポーツプロジェクト、トップスポーツプロジェクト

当該テーマに精通する専門家で構成するプロジェクトとして調査活動を実施し、明らかになった実態や課題と環境改善に向けた方策の提言などを報告書として発行するとともに、ホームページやシンポジウム等の各種機会を通じて社会へ発信していきます。

## 3. その他の情報発信

当財団の事業活動の意義や活動内容等について、ホームページなどを通じてスポーツのもつ多面的な価値・有用性についてより広く社会に情報発信していきます。

○以下の内容を中心に、タイムリーで分かりやすい情報提供に努めていきます。

- ・スポーツチャレンジ助成における助成対象者のチャレンジへの思い、実像、活動などの紹介
- ・スポーツチャレンジ賞受賞者の足跡・功績を紹介する「BACK STORIES」
- ・ジュニアヨットスクール葉山での子どもたちの活動紹介
- ・スポーツ教材提供先や水辺の風景画コンテスト参加団体の活動事例、各種募集情報
- ・調査研究活動の成果としての報告書やシンポジウムなどの情報など

○各種行事開催の案内や募集、報告などに関するニュース・リリースの発行。

○財団関係者、支援者の当財団事業への理解を促進するため、会報誌「YMFS 通信」を毎月発行するほか、SNSを活用したタイムリーな情報発信を行っていきます。

○以上に加え、当財団事業への理解促進を図るため、引き続き情報内容の充実に努めるとともに、当財団の事業を支援して下さる団体や、スポーツ関係団体、報道機関などとの継続したリレーションシップの強化を着実に進めていきます。